

(様式1) 実践事例

学校名	二本松市立二本松第三中学校	校長名	住吉 哲也		
住所	二本松市大作165	児童生徒数	338	学級数	14
TEL	0243-22-8349	ホームページアドレス	<a href="http://www.nihonmatsu3-j.fks.ed.jp/">http://www.nihonmatsu3-j.fks.ed.jp/</a>		

## 平成27年度少人数教育の充実に向けた取組

### 1 少人数指導の計画等

- (1) ねらいを明確にしたペア学習やグループ学習等を積極的に取り入れ、少人数での学習活動を充実させることにより、より一層の学習意欲の向上を図る。
- (2) 課題設定、教材の選択、発問の吟味、学習形態の工夫の4つの視点を大切にし、思考の共有と吟味を促す学び合いを取り入れた授業を行い、学力の向上を目指す。

### 2 実践の概要

#### (1) 第1学年 英語 「UNIT4 楽しい昼休み」

「CAN-DO リストの形で学習到達目標」(以下「CAN-DO リスト」)を作成し、身に付けさせたい資質や能力を明確にした上で、基本文の言語活動や、ペアによるスキット作成・発表の場を設け、生徒が主体的に学び合えるような活動を取り入れた。



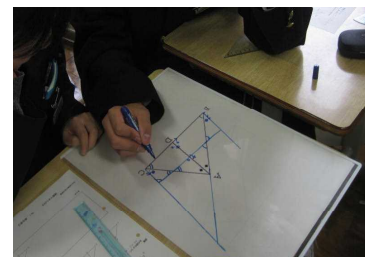
ペアでの活動の様子

スキットは、自分の昼休みの過ごし方をALTに伝えるという設定で作成させた。生徒が作成している間、教師が一人一人の学習状況を見取り、他のペアも使えるような表現を生徒に紹介させた。また、生徒が発表する際には、よりよい英語表現に気付かせたり、間違いに気付かせたりするために、教師が意図的に言い直させたり称賛したりして、学び合いが意欲的に行えるように工夫した。

生徒たちは、分からないことをお互いに気軽に聞くことができる雰囲気になり、ペアでのスキット作成も意欲的に話し合いながら活動していた。「CAN-DO リスト」に基づいた自己評価には、学び合いにより自分の英語表現が向上し、達成感を味わったことを記入した生徒が多かった。

#### (2) 第3学年 数学 「相似な図形」

授業では、情報交換ツールとして「Dボード」(ディスカッションボード: A3のクリアケースに必要な図を差し込んだもの。ホワイトボード用ペンで書き込み・修正可)を活用し、自分やペア、グループの考えを容易に修正・再構築することができるようにした。単に答えや考えだけでなく、その理由や根拠も書き込ませて意識して説明させるようにした。



Dボードを使った学び合い

座席は、習熟度の違う生徒をバランスよく組み合わせさせて配置したので、ペアやグループでの学び合いがスムーズに行われた。数学が得意な生徒は、説明の必要感を感じ、よりわかりやすく説明しようとし、得意でない生徒も積極的に質問するなど理解しようとしていた。

I C Tの活用では、図形の性質の説明や生徒の考えを全体で共有できるようスクリーンに投影しながら例示したり、説明したりした。他の生徒の考えた答えを、プロジェクターを使いながら説明するところは、見やすいし分かりやすいと答えた生徒が81%いた。

### 3 実践の成果と課題 ○：成果 ●：課題

- 小集団での議論のツールとして「Dボード」を活用したことで、すぐに書いたり消したりできることから、自分の考えを再考しながら具体的な議論を進めることができた。また自分の考えを相手に伝達する際にも自信をもって説明できるきっかけになった。「Dボード」は小集団での課題解決に向けて大変有効なツールである。
- ねらいを明確にしたペア学習やグループ学習等を積極的に取り入れ、教師が生徒の考えを見取り生かしながらコーディネートすることで、生徒は主体的に取り組み充実感をもつことができた。その結果、生徒が安心して仲間に尋ねたり相談したりして学び合う関係ができてきた。また、教師と生徒、生徒同士のコミュニケーションがより図られるようになってきた。
- 自己評価表を活用して学習を振り返り気付いたことを書き留めるとともに、他の生徒と共有する時間を確保することで、新たな気づきを促すことができた。このような振り返りは、学習内容の定着を図り、次時への意欲を喚起する。
- 思考の共有と吟味を促す学び合いを充実させるためには、どのように取り組んでいくかについて検討し、各教科の中で共通の実践事項を決め、互いに情報交換したり実践の工夫を共に考えたりするなど、同僚性を発揮しながら全校体制で実践していきたい。